

響灘における海浜型古墳について

池ノ上 宏

はじめに

かつて私は、津屋崎地区の海浜型古墳について学史と津屋崎地区における古墳について検討した¹⁾。今回は響灘における海浜型古墳について検討を行う。

本稿で扱う範囲は東端を山口県長門市向津具半島の川尻岬から西端を宗像市鐘の岬までとする。対象とする古墳は前稿と同じく古墳時代推定海岸線から八〇〇メートル、最大一キロメートル以内に立地する古墳とする。

(図一)

一覧表における規模の分類。

A群 地域内集団の構成員の墓。群集墳や横穴墓に加えて、墳丘を持たない石棺墓や埴輪棺といった多様な埋葬施設にする墓が含まれる。

B群 地域集団を統括していた地域首長の墓。数十メートル規模の前方後円墳や帆立貝式古墳や円墳が含まれる。

C群 地方支配者層の墓。古墳時代前期から中期にかけては全長一〇〇メートル、後期では全長六〇メートル以上の前方後円墳・前方後方墳およびそれらに追隨する規模の帆立貝式古墳・造り出し付き円墳・大型円墳。立地による分類。

びそれらに追隨する規模の帆立貝式古墳・造り出し付き円墳・大型円墳。立地による分類。

s 類 海拔一〇メートル以下の海岸部に立地している

t 類 海拔一〇メートル～五〇メートルという比較的低い海岸段丘・丘陵・砂丘上に立地している。

u 類 海拔五〇メートル以上の海岸段丘・丘陵に立地している。

開口方向については奥壁から入口方向を見て外海に向いている古墳、湾や入海に向いている古墳、それ以外の丘陵側や平野等陸地に向いている古墳を陸側と分類した。古墳の時期は「前方後円墳集成」の時期区分に従う。

副葬品等の出土場所は玄室や前室・羨道等、石室内からの出土であれば「内」、石室外の墓道・墳丘上・墳丘盛土内・周溝内からの出土であれば「外」、石室内と石室外の両方から遺物が出土していれば「両」と分類した。

埋葬施設について「**竪穴系横穴式石室**」を設定している。この用語は花田勝広により宗像に多い羨道が未発達であり竪穴系横穴式石室に類似した石室であり玄室が竪穴系横穴式石室よりも大型化する石室を提唱された²⁾。近年、小嶋篤³⁾や太田智⁴⁾によってこれらの宗像に多い「宗像型横穴式

番号	古墳名	所在地	分類		墳丘形	墳丘長	外部施設	埋葬施設	開口方向	築造時期	出土遺物											出土場所	備考	文献
			規模	立地							鏡	刀剣	武器	馬具	刀子	鉄鍬	漁具	農具	工具	装身具	土師器			
1	南ノ方1号	長門市油谷	A	u	円墳	11	周溝	竪穴系横穴式石室	外海	9					●	●				●	●	両		1・2・3
2	神鎮山	長門市油谷	A	t	円墳	14		竪穴系横穴式石室	外海	10	●			●	●						●	内		1・2
3	夕陽ヶ丘	下関市豊北町	A	t	円墳	12		竪穴系横穴式石室	外海	9	●		●						●					1
4	三浦山1号	下関市豊北町	A	t	円墳	12		石棺系石室		6	●													1
5	和久1号	下関市豊北町	A	t	円墳	10		単室横穴式石室	陸	10	●		●	●	●				●	●	●	両	土鍾	4
6	大迫1号	下関市豊浦町	A	t	円墳	10		竪穴系横穴式石室	外海	10	●			●					●	●	内		鈴台付高坏	1・2・5・8
7	大迫2号	下関市豊浦町	A	t	円墳			単室横穴式石室	外海	10	●			●										1・2・5・8
8	大迫3号	下関市豊浦町	A	t	円墳			石室	外海	10	●			●					●					1・2・5・8
9	青井1号	下関市豊浦町	A	t	円墳			竪穴系横穴式石室	陸	10	●			●	●				●	●	外		子持台付壺	1・2・5・8
10	青井2号	下関市豊浦町	A	t	円墳	10		竪穴系横穴式石室	陸	9	●			●	●				●	●				1・2・5・8
11	青井3号	下関市豊浦町	A	t	円墳			単室横穴式石室	湾	10					●					●				1・2・5・8
12	青井4号	下関市豊浦町	A	t	円墳			複室横穴式石室		10				●	●					●				1・2・5・8
13	青井5号	下関市豊浦町	A	t	円墳			複室横穴式石室	陸	10					●					●				1・2・5・8
14	青井6号	下関市豊浦町	A	t	円墳					10	●			●	●					●				1・2・5・8
15	心光寺2号	下関市豊浦町	A	t	円墳					10	●			●	●			●	●	●			鉄槌・陶質土器	1・2・8
16	大門	下関市豊浦町	B	t	前方後円墳	35	円筒埴輪	竪穴系横穴式石室	外海	9			●	●					●	●	両			1・2・9
17	間2号	下関市豊浦町	A	t				横穴式石室	陸	11	●			●					●	●	内			1・2・10
18	間3号	下関市豊浦町	A	t				横穴式石室	陸	10	●			●	●				●	●	内			1・2・10
19	甲山W-4号	下関市豊浦町	A	t	円墳			単室横穴式石室	陸											●			町史の甲山O号墳	1・2・6・7
20	甲山W-7号	下関市豊浦町	A	t	円墳	9	周溝	複室横穴式石室	陸	10	●			●					●	●	●	両		1・2・8・11
21	観音岬	下関市	B	s	前方後円墳	48	葺石・円筒埴輪			5														1・2・12
22	若宮1号	下関市	B	t	前方後円墳	39.7	葺石・円筒埴輪	箱式石棺		6	●								●	●				1・2・13
23	上の山	下関市	C	t	前方後円墳	108				9	●			●	●				●					1・2
24	宮山古墳	下関市	B	t	前方後円墳	33.2		横穴式石室	外海	10									●					1・2・14
25	貝島1号	北九州市小倉北区	A	s	円墳	4		竪穴系横穴式石室	外海	9	●			●	●	●			●	●	●	内	石障	15・16・17
26	貝島4号	北九州市小倉北区	A	s	円墳			竪穴系横穴式石室	外海	10	●			●	●				●	●	内		釘	15・16・17
27	貝島12号	北九州市小倉北区	A	s	円墳			単室横穴式石室	外海	10														15・16・17
28	千畳敷上2号	北九州市小倉北区	A	t	円墳	9		単室横穴式石室	外海															18
29	日明一本松塚	北九州市小倉北区	A	t	円墳	15		複室横穴式石室	陸	11	●		●	●	●				●	●	●	内	装飾古墳	15・16・19
30	名護屋岬1号	北九州市戸畑区	A					単室横穴式石室	外海	10									●				木蓋か	16・20
31	名護屋岬2号	北九州市戸畑区	A					単室横穴式石室	外海	10					●				●	●			木蓋か	16・20
32	名護屋岬3号	北九州市戸畑区	A					単室横穴式石室	外海	10					●				●	●			木蓋か	16・20
33	小田山2号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	陸															16・21
34	小田山3号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	外海															16・21
35	小田山7号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	外海															16・21
36	小田山9号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	外海															16・21
37	城ヶ崎1号	北九州市若松区	A	t	円墳			石棺系石室																15・16
38	城ヶ崎2号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	陸		●			●	●					●				15・16
39	城ヶ崎3号	北九州市若松区	A	t	円墳			竪穴系横穴式石室	陸										●					15・16
40	城ヶ崎4号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	外海		●								●					15・16
41	城ヶ崎5号	北九州市若松区	A	t	円墳			石棺系石室																15・16
42	城ヶ崎6号	北九州市若松区	A	t	円墳			石棺系石室																15・16

表1 海浜古墳一覧表1

番号	古墳名	所在地	分類		墳丘形	墳丘長	外部施設	埋葬施設	開口方向	築造時期	出土遺物											出土場所	備考	文献				
			規模	立地							鏡	刀剣	武器	馬具	刀子	鉄鍬	漁具	農具	工具	装身具	土師器				須恵器			
43	城ヶ崎7号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	陸																		15・16	
44	こうしんのう1号	北九州市若松区	A	t	円墳	12	馬蹄溝・外護列石	単室横穴式石室	外海	9																		15・16・24
45	こうしんのう2号	北九州市若松区	A	t	円墳	9		単室横穴式石室	外海	9		●																15・16・24
46	こうしんのう3号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室																				15・16
47	こうしんのう5号	北九州市若松区	A	t	円墳			石棺系石室		8																		15・16・23
48	こうしんのう6号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	外海																			15・16・23
49	こうしんのう7号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	外海																			25
50	こうしんのう8号	北九州市若松区	A	t				単室横穴式石室	陸	10																		25
51	こうしんのう9号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	陸																			15・16・22・23
52	こうしんのう10号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室																				15・16・22
53	こうしんのう11号	北九州市若松区	A	t				単室横穴式石室	陸			●																25
54	こうしんのう18号	北九州市若松区	A	t	円墳			単室横穴式石室	陸	10																		15・23
55	大城大塚	遠賀郡芦屋町	B	t	円墳	36	円筒埴輪	単室横穴式石室	陸	7		●	●															26・27・28
56	島津・丸山	遠賀郡遠賀町	B	t	前方後円墳	57	周溝・葦石			3																		29・30
57	島津・塚の元1号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	18	周溝	石棺系石室		5		●																31
58	島津・塚の元2号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	15	周溝	箱式石棺・竪穴式石室		4																		31
59	島津・塚の元3号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	11	周溝	土壌墓		4																		31
60	島津・塚の元4号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	13	周溝	木棺		5																		31
61	島津・塚の元5号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳			石棺系石室		7																		31
62	島津・塚の元6号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	4.6	周溝	石棺系石室		6																		31
63	島津・塚の元7号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	3.5	周溝	石棺系石室		8																		31
64	島津・塚の元8号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳			石棺系石室		7																		31
65	島津・塚の元9号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	12		竪穴系横口式石室	陸	8																		31
66	島津・塚の元10号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	6		竪穴系横口式石室	陸	8		●																31
67	尾崎・天神1号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	10		竪穴系横口式石室	陸	7		●																32
68	尾崎・天神2号	遠賀郡遠賀町	A	t				竪穴系横口式石室	陸	8		●																32
69	尾崎・天神3号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	13	周溝	竪穴系横口式石室	陸	8		●																32
70	尾崎・天神4号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	13	周溝			8																		32
71	尾崎・天神5号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	10	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	9		●																33
72	尾崎・天神6号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	12	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	9		●																33
73	尾崎・天神7号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳		周溝	竪穴系横穴式石室	陸	9																		33
74	豊前坊1号	遠賀郡遠賀町	B	u	前方後円墳	73.5	葦石・壺形埴輪			3		●																34
75	豊前坊2号	遠賀郡遠賀町	A	u	円墳	18		箱式石棺		2		●																34
76	豊前坊3号	遠賀郡遠賀町	B	u	前方後円墳	32		組合式箱式石棺		4		●																34
77	花園5号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	17	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	9																		35
78	花園6号	遠賀郡遠賀町	A	t	円墳	15	周溝	単室横穴式石室	陸	9																		35
79	菟ヶ坂1号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	23	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	9		●	●	●	●													36
80	菟ヶ坂2号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	13	周溝	竪穴系横穴式石室	入海	10		●	●	●	●													36
81	菟ヶ坂3号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	11	周溝	竪穴系横口式石室	陸	8																		36
82	菟ヶ坂4号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	8	周溝	石棺系石室		9																		36
83	菟ヶ坂6号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	15	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	10																		36
84	菟ヶ坂7号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			石室	陸	10																		36
85	縄手1号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	14	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	10		●																37
86	縄手2号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	9		竪穴系横穴式石室	陸	10																		37
87	縄手3号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	14		竪穴系横穴式石室	陸	9		●	●	●	●													37

表2 海浜古墳一覧表2

番号	古墳名	所在地	分類		墳丘形	墳丘長	外部施設	埋葬施設	開口方向	築造時期	出土遺物												出土場所	備考	文献			
			規模	立地							鏡	刀剣	武器	馬具	刀子	鉄鏃	農具	工具	装身具	土師器	須恵器							
88	縄手 4号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	11		竪穴系横穴式石室	陸	9								●	●	●	●	●	外		37			
89	縄手 5号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	14		竪穴系横穴式石室	陸	9								●	●	●	●	●	●	両		37		
90	東田 1号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	11	周溝	竪穴系横穴式石室	入海	10											●	●	●	外		39		
91	東田 2号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	10		竪穴系横穴式石室	入海	9												●	●	外		39		
92	東田 3号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	9	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	10											●	●	●	外		39		
93	東田 4号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	10	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	9													●	●	両		39	
94	東田 5号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	13	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	10												●	●	外		39		
95	東田 6号	遠賀郡岡垣町	A	t				竪穴系横穴式石室	陸	9													●	●	外		39	
96	東田 7号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	14	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	10													●	●	外	弓頭金具・鉄斧・鉄鎌	39	
97	東田 8号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	11	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	10													●	●	両	鉄斧・鉈・銅釧	39	
98	東田 9号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	10	周溝	竪穴系横穴式石室	陸	9																	39	
99	東田 11号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	16		竪穴系横穴式石室	陸	10													●	●	外	鉈・鈴脚高環	39	
100	東田 12号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	10		単室横穴式石室	陸	9																鉄斧	40	
101	東田 15号	遠賀郡岡垣町	A	t				竪穴系横穴式石室	陸	10																旧高倉4号・木材天井・鈴	38	
102	東田 16号	遠賀郡岡垣町	A	t				竪穴系横穴式石室	陸	10																旧高倉5号・木材天井	38	
103	東田 17号	遠賀郡岡垣町	A	t				竪穴系横穴式石室	陸	10																旧高倉6号・木材天井	38	
104	東田 20号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	10		複室横穴式石室	陸	10																		40
105	長尾 1号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	20		竪穴系横穴式石室	陸	10																		41
106	片山 4号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			単室横穴式石室	入海	10																		42
107	片山 7号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			単室横穴式石室	入海	10																		42
108	片山 8号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			単室横穴式石室	入海	10																		42
109	片山 9号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			竪穴系横穴式石室	外海	8																	横矧板 鉄留式短甲	42
110	片山 10号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	10		単室横穴式石室	入海	10																		42
111	片山 11号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			石棺系石室		7																		42
112	片山 12号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			竪穴系横穴式石室	外海	8																	鉄斧	42
113	片山 13号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			単室横穴式石室	入海	9																		42
114	片山 14号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	15		竪穴系横穴式石室	外海	8																		43
115	片山 15号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			竪穴系横穴式石室	入海	8																		43
116	片山 16号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	15		竪穴系横穴式石室	陸	8																	U字形銅先・鑿	43
117	片山 17号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			竪穴系横穴式石室	外海	9																		43
118	片山 18号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			単室横穴式石室	入海	10																	帯金具・丸駒	43
119	片山 19号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			単室横穴式石室	入海	11																		43
120	片山 20号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			単室横穴式石室	入海	11																		43
121	手野 1号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	20	外護列石	複室横穴式石室	陸	11																		44
122	手野 2号	遠賀郡岡垣町	A	u	円墳	9	外護列石	単室横穴式石室	陸	11																		44
123	原草場 1号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳	18		石棺系石室		7																		45
124	原草場 2号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			竪穴系横穴式石室	外海	8																		45
125	原草場 3号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳		周溝			9																		45
126	原草場 4号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳		周溝																					45
127	原草場 5号	遠賀郡岡垣町	A	t	円墳			竪穴式石室		7																		45
128	塩屋	遠賀郡岡垣町	B	t	前方後円墳	72		葺石・円筒埴輪		4																		46
129	磯辺 1号	遠賀郡岡垣町	B	t	前方後円墳	60		葺石・円筒埴輪		3																		46
130	磯辺 2号	遠賀郡岡垣町	B	t	前方後円墳	20				4																		46

表3 海浜古墳一覽表3

No.	著者	発行年	書名	発行所	巻
1		2002	山口の古墳	第28回九州・山口古墳時代研究会	
2	河村吉行・富士莖勇・渡辺一雄・中村徹也・岩崎仁志	2000	山口県史 資料編 考古1	山口県	
3		1990	油谷町史	油谷町	
4	松永博明	2012	和久1号古墳	下関市文化財調査報告書	33
5	富士莖勇	1987	青井・大迫古墳群	豊浦町教育委員会・黒井漁協自然海浜センター	
6		1979	豊浦町史	豊浦町	
7		1982	豊浦町史二	豊浦町	
8		1992	豊浦町史三 考古編	豊浦町	
9	富士莖勇	1991	前方後円墳 大門古墳	豊浦町埋蔵文化財調査報告	12
10	富士莖勇	1975	間古墳発掘調査報告	豊浦町教育委員会	
11	岩崎仁志	1998	平成6～9年度 重要遺跡確認緊急調査報告書	山口県埋蔵文化財調査報告	185
12	松永博明	2013	観音岬古墳の墳丘について	下関市立考古博物館研究紀要	17
13	伊東照雄	1992	史跡綾羅木郷遺跡保存修理事業報告書	下関市文化財調査報告書	
14	中原周一	2009	下関市生野地域における古墳時代後期の埋葬遺跡について	下関市立考古博物館研究紀要	13
15	小田富士雄・黒野肇・山中英彦・轟次雄	1976	北九州市の埋蔵文化財一遺跡分布調査報告書一	北九州市文化財調査報告書	16
16	小田富士雄・前田義人・武末純一・山中英彦	1985	北九州市史 総論・先史・原史	北九州市	
17	山中英彦	1978	貝島古墳群	北九州市文化財調査報告書	28
18	藤真沙夫	1968	藍島	北九州市文化財調査報告書	2
19	小田富士雄	1988	日明・一本松塚古墳調査報告	創立八十周年記念 まがたま 小倉高等学校考古学部	
20	名和羊一郎	1958	名護屋岬古墳	郷土戸畑 戸畑土研究会	1
21		1959	若松市史第2集	若松市	2
22	若松高校歴史部	1964	郷土若松第3号	若松郷土研究会	3
23	小田富士雄・安倍芳一・黒野肇	1969	こうしんのう古墳群調査報告 図版篇	北九州市文化財調査報告書	3
24	前田義人	1981	こうしんのう1号墳	北九州市埋蔵文化財調査報告	8
25	安倍芳一	1989	昭和63年度国庫補助事業調査報告書	北九州市文化財調査報告	48
26	中島茂夫	1980	福岡県芦屋町大城大塚古墳の紹介	地域相研究	9
27		1991	増補改訂 芦屋町誌	芦屋町	
28		1999	九州における横穴式石室の導入と展開	九州前方後円墳研究会	2
29	島津丸山古墳測量調査会	1980	福岡県島津丸山古墳の測量調査	地域相研究	9
30	武田光正	1997	島津・丸山古墳群	遠賀町文化財調査報告書	9
31	武田光正	1993	島津・塚の元古墳群	遠賀町文化財調査報告書	6
32	武田光正	1995	尾崎・天神遺跡Ⅲ	遠賀町文化財調査報告書	7
33	武田光正	1999	尾崎・天神遺跡Ⅳ	遠賀町文化財調査報告書	13
34	武田光正	1996	豊前坊古墳群・経塚	遠賀町文化財調査報告書	8
35	酒井仁夫・伊崎俊秋・奥野正男	1987	波打古墳群	遠賀町文化財調査報告書	1
36	木下修	1993	菟ヶ坂古墳群	福岡県文化財調査報告書	106
37	中川潤次	1992	縄手古墳群	岡垣町文化財調査報告書	13
38	小田富士雄・黒野肇	1963	筑前・高倉古墳群調査概報	九州考古学	17
39	川述昭人	1977	東田古墳群	岡垣町教育委員会	2
40	下川航也	2002	東田古墳群Ⅱ	岡垣町文化財調査報告書	23
41	下川航也	2001	長尾古墳群	岡垣町文化財調査報告書	20
42	石山勲・副島邦弘・前川威洋	1970	片山古墳群	福岡県文化財調査報告書	46
43	石山勲・上野精志・副島邦弘	1978	片山古墳群	岡垣町文化財調査報告書	3
44	下川航也	1999	手野古墳群	岡垣町文化財調査報告書	17
45	副島邦弘	1986	原草場古墳群	岡垣町文化財調査報告書	6
46	轟次雄	1986	福岡県岡垣町塩屋前方後円墳発見によせて	地域相研究	16

表4 海浜古墳一覧表文献一覧

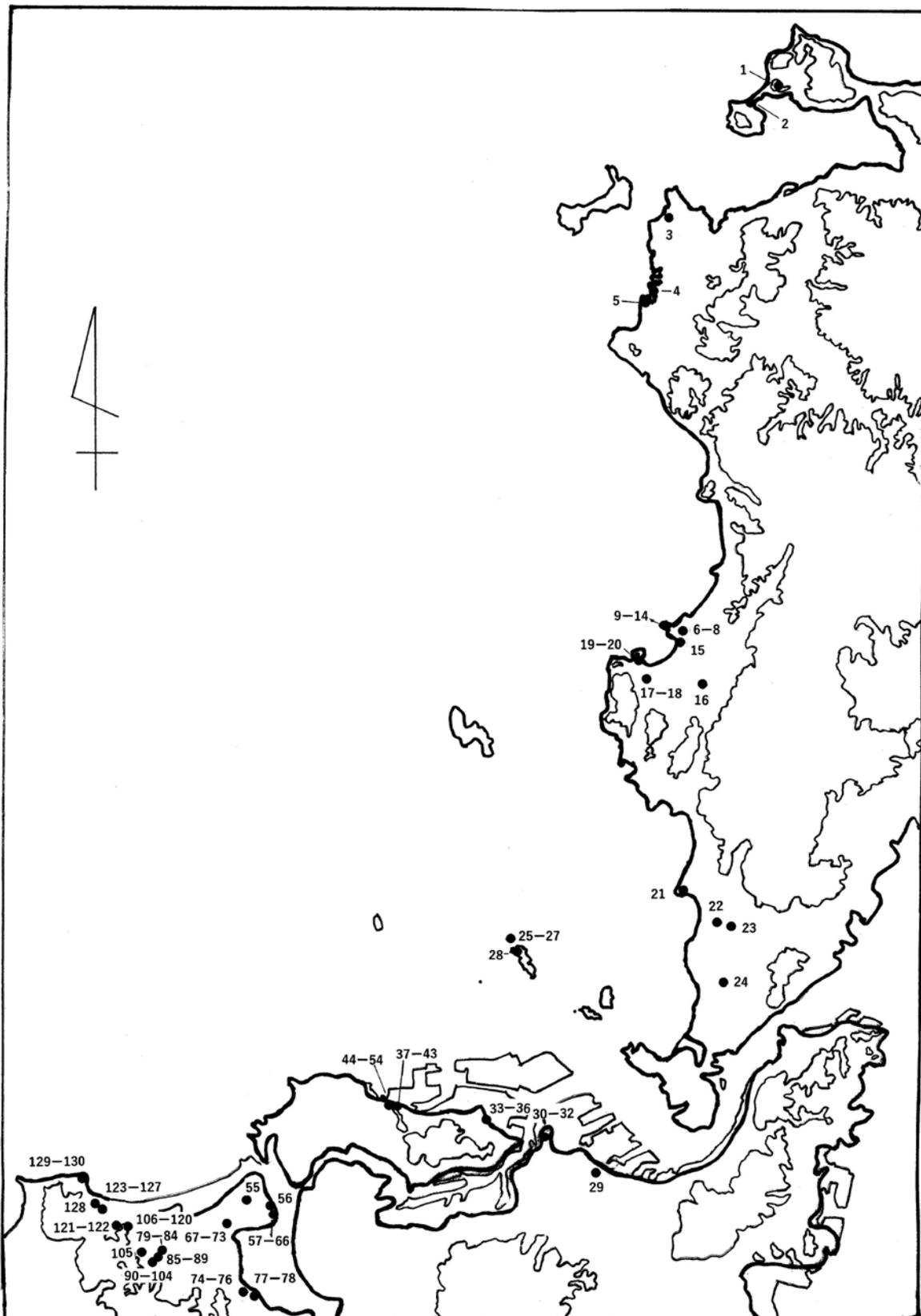


図1 響灘の海浜古墳位置図

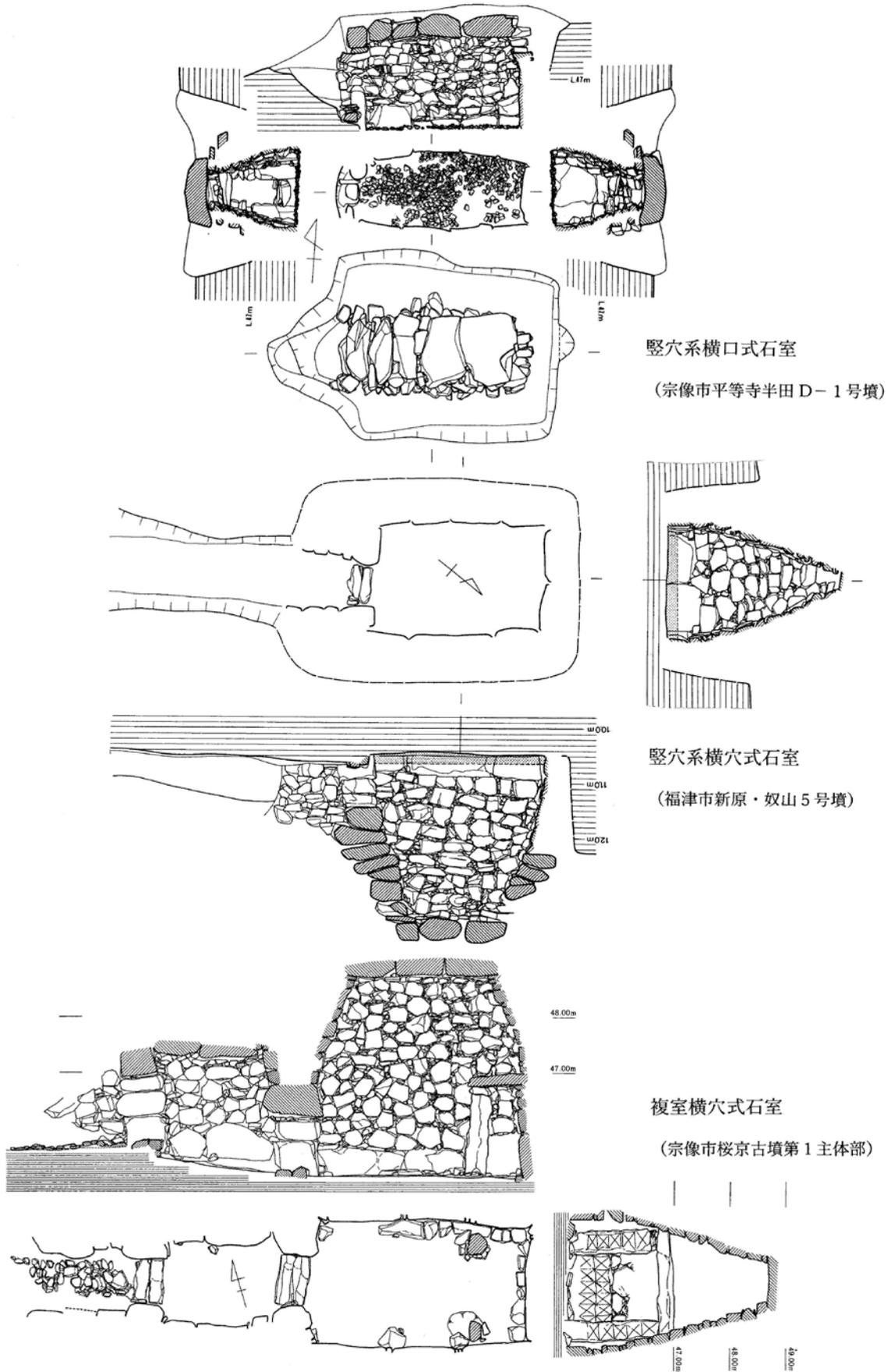


图2 豎穴系横口式石室・豎穴系横穴式石室・複室横穴式石室 (S = 1/120)

「石室」について検討がなされている。私はこの宗像に多くある竪穴系横穴式石室について、時期は五世紀末から六世紀後葉の石室。玄門の外側、入口側に天井をもつ羨道は付設されない。玄門の外側には入口が壊れてこなように石積で壁を補強した「前庭側壁」が付設される。

宗像では五世紀代の石室の多くは図二の竪穴系横穴式石室が主流を占める。六世紀には玄室の平面積も高さも増加する。本稿で「竪穴系横穴式石室」と分類している石室である。宗像では六世紀中頃に玄室の前に部屋を付設する複室構造の石室があらわれる。前室の入口側、前門の入口側は前庭側壁が付設し、羨道は付設されない古墳が多い。

一 山口の海浜型古墳（図三）

向津具半島丘陵部に六世紀中頃築造の南ノ方一号墳がある。埋葬施設は玄門に前庭側壁が付く竪穴系横穴式石室である。六世紀後半築造の神鎮山古墳は半島と砂嘴でつながる油谷島の低丘陵先端に位置している。半島の南には良港と考えられる油谷湾が広がる。

五世紀前半築造の三浦山一号墳は石棺系石室を持つ。六世紀代末築造の夕陽ヶ丘古墳は竪穴系横穴式石室を持ち、六世紀後半代築造の和久一号墳は羨道が短い横穴式石室を持つ。いずれの古墳も響灘を望む丘陵頂部に築かれている。

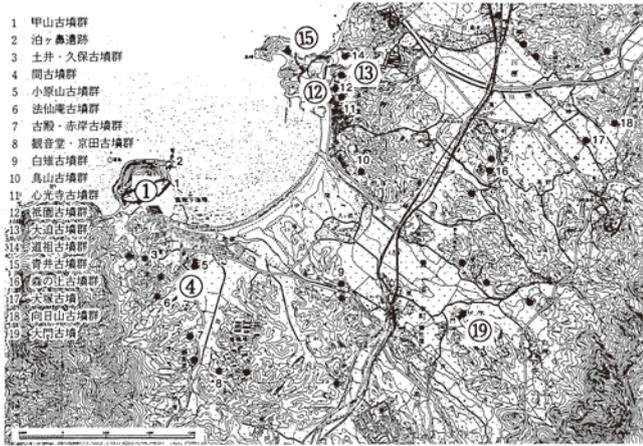
響灘に面する室津湾は、北の青井と南の甲山の両半島の間に緩やかに湾入する入り江である。湾に注ぐ吉永川・黒井川によって沖積平野が形成され、その河口には砂丘が発達している。古墳時代は現在より内陸深くに海

岸線が入っていたと推定されている。砂丘上や沖積平野に集落遺跡が存在する。この室津湾に面する地域は山口県内でも数多くの古墳が築かれる地域である。響灘に突出する青井半島に青井古墳群、岬の基部にあたる位置に大迫古墳群と心光寺古墳群が築かれる。青井一号墳から新原・奴山四四号墳から出土した子持ち脚付壺と同様のものが出土している。また心光寺二号墳からは新羅系陶質土器と鉄槌が出土している。

湾の反対側の甲山は標高一七メートルの三角形を呈する山で、陸地側のなだらかな斜面に九五基で構成される甲山古墳群が築かれている。山口県では萩市見島のジーコンボ古墳群に次ぐ多さである。墳形はほとんど円墳で群内に際立った大型墳は存在しないようである。石室規模も同様で総じて小型である。甲山の北東麓の泊ヶ鼻には古墳時代から中世にかけての土器が散布している。海上交通に関わる祭祀遺跡と考えられている⁽⁵⁾。

吉永川中流域の舌状台地の先端部に六世紀前葉の大門古墳が築かれる。全長三五メートルの前方後円墳で埋葬施設は玄門に玄門に前庭側壁が付く竪穴系横穴式石室である。

五世紀前半に築かれた観音岬古墳は響灘に小さく突き出た岬の先端部に立地する推定復元長四八メートルの前方後円墳。後続して綾羅木川沿いの洪積台地に全長四三メートルの若宮一号墳が築かれる。埋葬施設は箱式石棺。同一台地上に六世紀代の上ノ山古墳が築かれる。神社の社殿で削平を受けているが推定長一〇八メートルとされる。副葬品は豪華で金銅装馬具・三輪玉形金具・六鈴鏡が出土している。



室津湾周辺の遺跡分布

- ① 甲山古墳群 ④ 間古墳群 ⑫ 心光寺古墳群
 ⑬ 大迫古墳群 ⑮ 青井古墳群 ⑲ 大門古墳



甲山古墳群分布図 (S = 1 : 5,000)

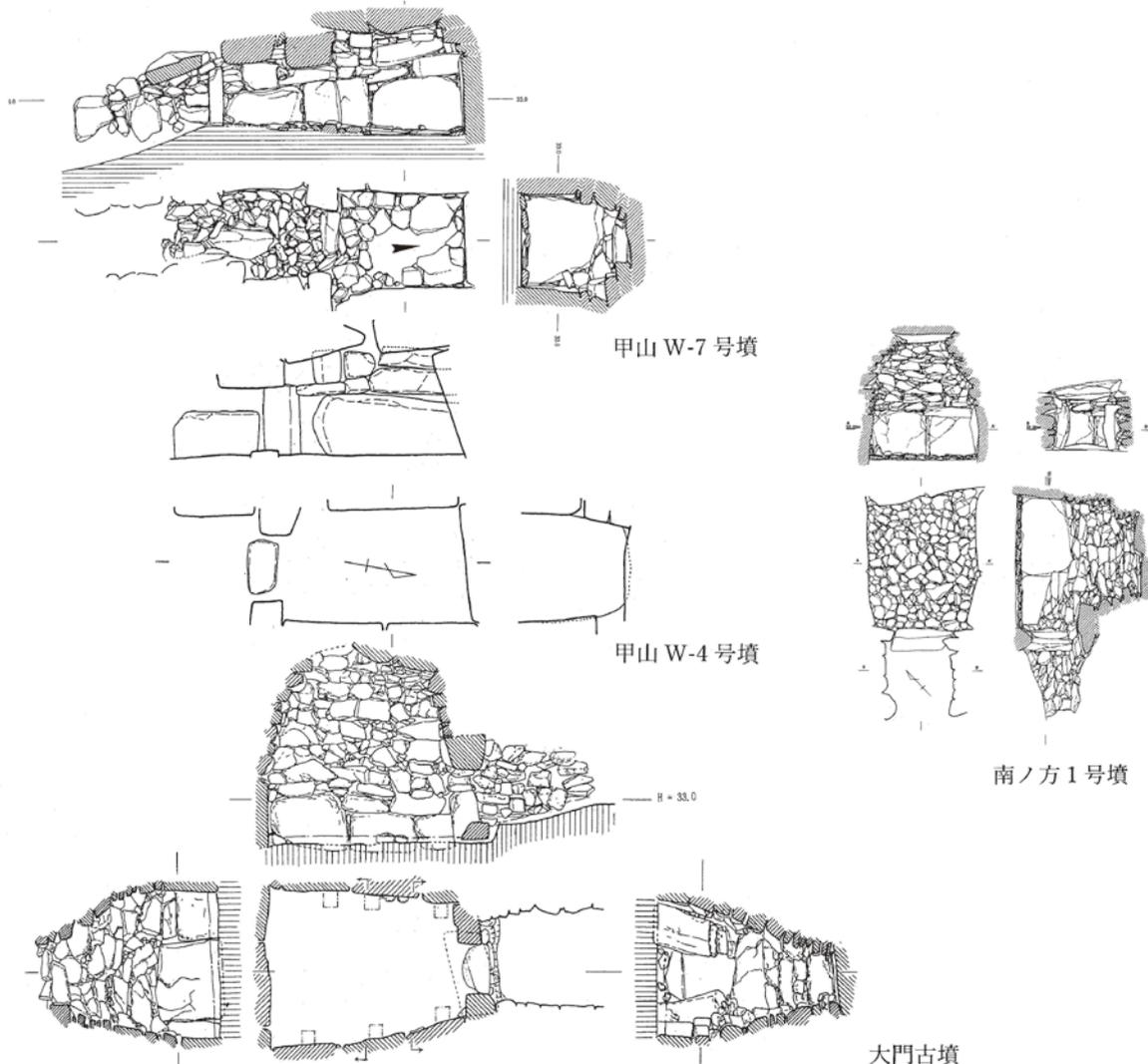


図3 山口の海浜型古墳 (石室 S = 1/120)

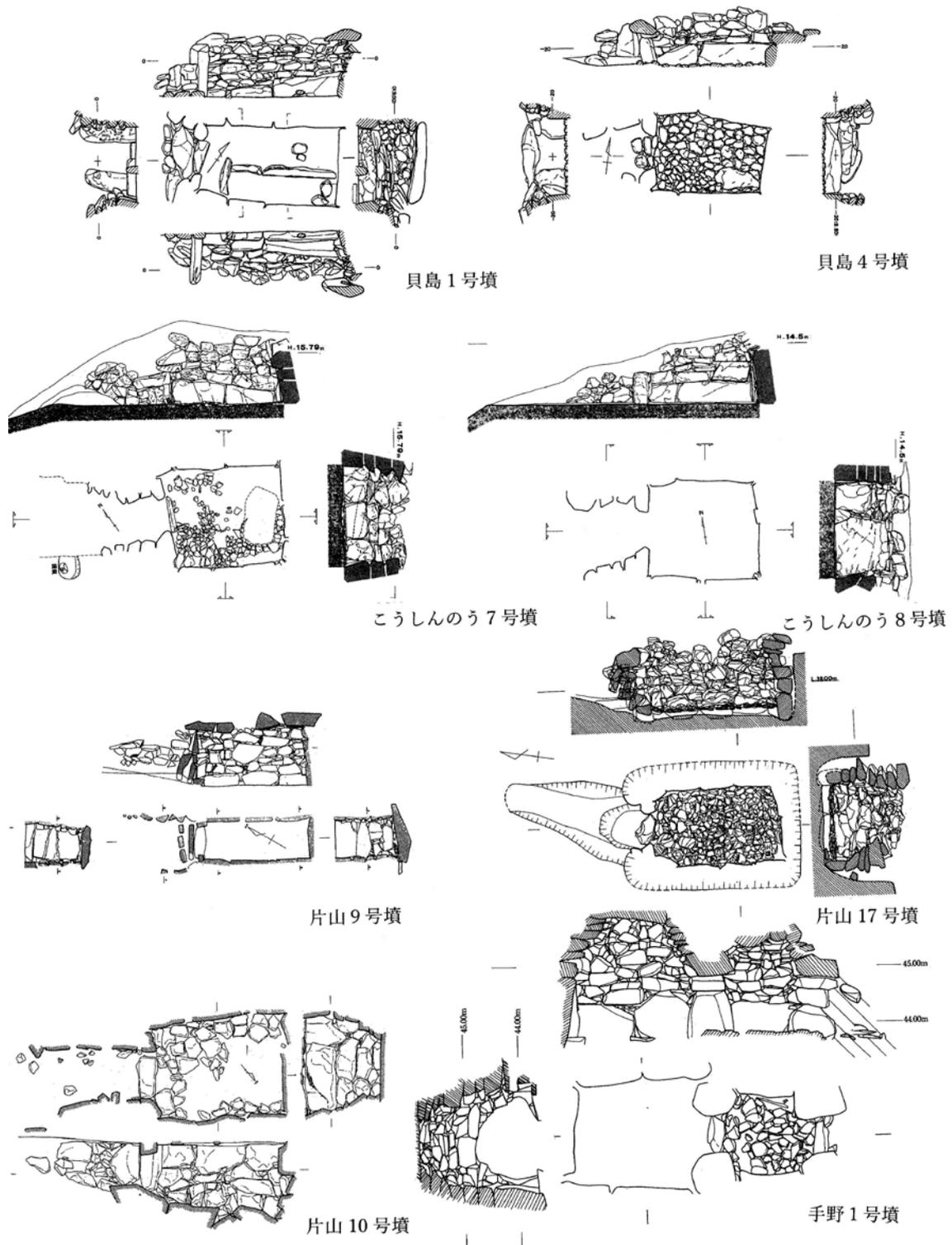


図4 北九州・遠賀の海浜型古墳 (石室 S = 1/120)

二 北九州の海浜型古墳 (図四)

九州本土から北北西約一二キロメートル離れた藍島は『日本書紀』仲哀紀に記録される「阿閉嶋」と想定される。南北二キロメートル、東西〇・七五キロメートル、最高標高二六メートルの細長い小さな島であるにも関わらず中央に知られた島であった。島には計二九基の古墳が確認され、その多くが島の北端に築かれている⁽⁶⁾。藍島の北四〇〇メートル離れて標高九・八メートル低平な貝島がある。この島の四〇〇平方メートルの平坦な段丘上に計一三基からなる貝島古墳群が築かれている。一号墳は直径三・七五メートル、高さ一メートルの小円墳で、埋葬施設は竪穴系横穴式石室で石室右側壁と並行して屍床を持つ。副葬品は剣・刀子・鏃といった武器に加えて、銚頭・銚・鉄製釣針と海藻採取用の鎌といった漁労具が出土している。四号墳も竪穴系横穴式石室で武器の剣・刀・刀子と漁労具の銚頭・釣針が出土している。発掘調査はされていないが現地確認によって藍島と貝島の他の古墳も概ね六世紀代で小規模な単室横穴式石室を持つようである⁽⁷⁾。

図一中、太線で示しているのは古墳時代の海岸線である。山口県域は現在の海岸線と同じであるが、北九州市域では弥生時代の海岸線を使用している⁽⁸⁾。洞海湾はより内陸に遠賀川下流域はより広く、細い水道によって遠賀川と洞海湾は繋がっている。若松は古墳時代細い水道によって九州島とは切り離され島であった。海浜型古墳はこの若松周辺に集中している。響灘をのぞむ丘陵南斜面に築かれた日明一本松塚古墳は装飾壁画をもつ複

室横穴式石室である。直径一五メートルの円墳と推定されている。高さ二・五メートル幅二・一メートルの奥壁一枚石にベンガラを使った放射線文様が描かれている。副葬品には金銅製馬具がある。六世紀末の築造である。洞海湾入口部に位置する名護屋岬古墳群は埋葬施設が石室の腰石だけでその上部の壁石が無くて木蓋で塞ぐ横穴式石室と考えられている。名護屋岬古墳群の対岸の若松の丘陵斜面に五〇数基からなる小田山古墳群がある。墳形は円墳で埋葬施設は横穴式石室で短い羨道を持つものや羨道が未発達石室、長い羨道を持つものがある。いずれの古墳も六世紀後半の築造と考えられる。若松の響灘側に城ヶ崎古墳群、こうしんのう古墳群が築かれる。城ヶ崎古墳群は七基からなる古墳群で墳形は円墳と考えられるが全体的に盛土は少ないようである。埋葬施設は石棺系石室・竪穴系横穴式石室・単室横穴式石室である。天井に石を用いず木材を用いているものがある。こうしんのう古墳群は一八基からなる古墳群である。一号墳には墳丘盛り土の流失を防ぐために墳裾と盛り土内に外護列石がめぐらされている。

三 遠賀の海浜型古墳 (図四)

遠賀川下流域は「古遠賀潟」と呼ばれる内海が内陸深く入り込んでいた。記紀の記述からこの古遠賀潟の河口域を本拠地にした岡県主がいたと考えられている。離島の藍島、貝島や戸畑、若松の古墳群もこの岡県主の支配領域下にあったと考えられる。

古遠賀潟の河口域の砂丘上に大城大塚古墳が築かれる。径三六メートルの大型円墳で埋葬施設は単室横穴式石室とされる。石障と石柱がある。五

世紀後半の築造と考えられる。島津・丸山古墳も古遠賀潟の河口域に築かれた全長五六・五メートルの前方後円墳である。四世紀前半の築造と考えられる。古遠賀潟に面した標高七〇メートルの独立丘陵の頂部に全長七四メートルの前方後円墳の豊前坊一号墳と径一八メートルの円墳の豊前坊二号墳、全長三二メートルの豊前坊三号墳が墳裾を切り合い築かれている。他に島津・丸山古墳、同じ丘陵に四世紀後半から五世紀末に築かれた円墳群の島津・塚の元古墳群と大城大塚古墳と同じ砂丘上に五世紀後半から六世紀代に築かれた円墳群の尾崎・天神遺跡、豊前坊古墳群の立地する独立丘陵から古遠賀潟へ延びる丘陵上に築かれた花園古墳群がある。

響灘に面した三里松原の内陸は汐入川沿いに内海が広がっていたと推定されている。古墳時代も含め推定海岸線を示した図を見つけない事ができなかったため、今後の研究により海浜型古墳は増加する可能性がある。内海の最奥部にあたる位置に菟ギ坂古墳群、縄手古墳群、東田古墳群、長尾古墳群が築かれる。いずれの古墳も円墳で六世紀中葉から六世紀後葉の群集墳である。この中の東田古墳群一五号墳・一六号墳・一七号墳の石室の天井に石を用いず木材で塞いでいたようである。同例は戸畑の名護屋岬古墳群⁹や若松の城ヶ崎古墳群やこうしんの古墳群¹⁰にも見られる。

内海の西奥部で宗像地域との境をなす孔大寺山から内海へ延びた丘陵上に片山古墳群、手野古墳群が、孔大寺山に連なる湯川山から内海へ延びた丘陵上に原草場古墳群が築かれる。これらの古墳群は五世紀後半から六世紀後半の群集墳である。

響灘に突き出た湯川山麓の響灘を望む場所に推定全長六〇メートルの磯

辺一号墳と推定全長二〇メートルの磯辺二号墳が築かれる。磯辺一号墳からは円筒埴輪が出ており四世紀前半の築造が考えられている。続く四世紀後半に湯川山の麓で推定全長七二メートルの塩屋古墳が築かれる。これら三基の前方後円墳については測量等の調査は実施されておらず今後の調査によって内容が変更になる可能性はあるが遠賀地域でも古い古墳であることは変わらないと考えている。

四 まとめ

響灘における海浜型古墳を広瀬が考える変遷を基に検討する¹¹。第一段階の三世紀中頃から四世紀後半頃の古墳としては響灘から視認できる磯辺一号墳・磯辺二号墳・塩屋古墳と古遠賀潟に面した島津・丸山古墳や豊前坊一号墳・豊前坊二号墳がある。畿内から大陸への航路や寄港地に築かれた古墳である。第二段階の五世紀代の古墳は山口の観音岬古墳と若宮一号墳がある。規模は五〇メートル以下でそれ以前の古墳よりも規模も数も低下している。宗像地域での規模に比べるとその差が大きいと考える。その後の六世紀中頃から末までの第三段階は全国的に群集墳の爆発的な築造がみられる時期である。海岸部にも小規模な海浜型古墳は多数築造される。その多くが港湾近くに築造されている。向津具半島の南方古墳群・神鎮山古墳は油谷湾、甲山古墳群等は室津湾周辺の古墳は室津湾、遠賀の尾崎・天神遺跡や花園古墳群は古遠賀潟、菟ギ坂古墳群、縄手古墳群、東田古墳群、長尾古墳群、片山古墳群、手野古墳群、原草場古墳群は三里松原の内海がそれぞれの港と想定する。船での移動の際の立ち寄りや潮待ちのための港で

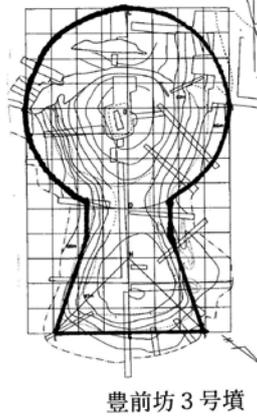
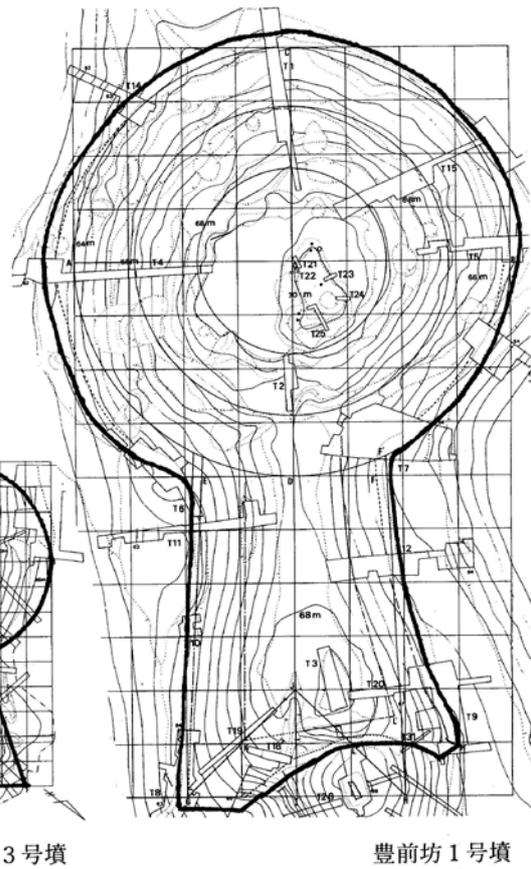
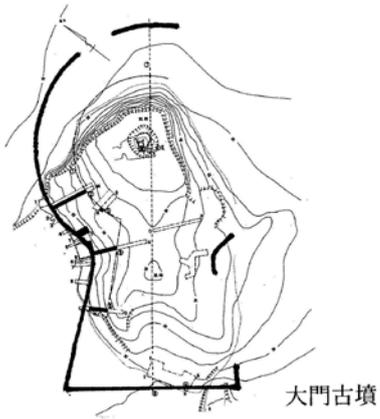
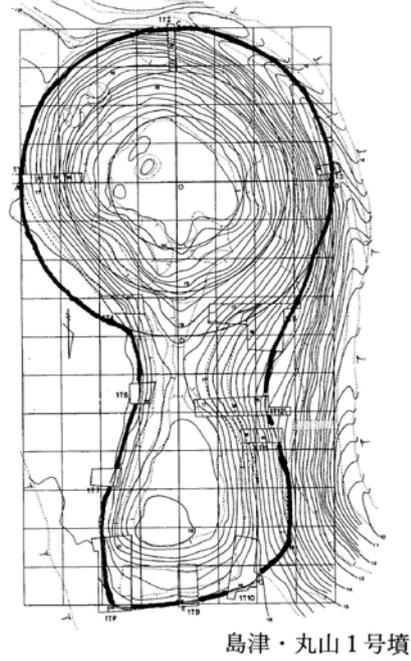
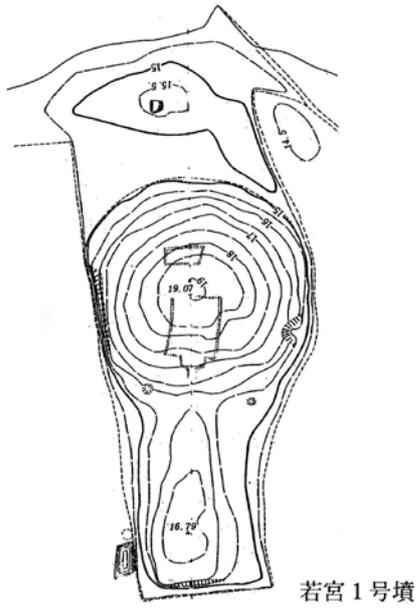


図5 響灘の海浜型古墳・前方後円墳 (S = 1/800)

ありそれを支配管理する人物の古墳と考えている。近くに港がない古墳も存在する。下関の上の山古墳や宮山古墳は、流れが速い関門海峡を避けるために瀬戸内海航路から一旦上陸して陸路を通り響灘へ抜けて再度乗船する場所に位置する古墳と考えられる。若松の城ヶ崎古墳群やこうしんのう古墳群は響灘を望む場所にある。離島の藍島と貝島に築かれた古墳は石室が小さく墳丘も大きくなく石積も若松の古墳と似ている、これらの古墳の被葬者について単なる漁撈民ではなく軍事的性格も併せ持っていた¹²⁾。六世紀の朝鮮半島の三国間の緊張に伴う倭の軍事的な対応に伴った人物の古墳と考えている。

註

- (1) 池ノ上宏「津屋崎地区における海浜型古墳について」『沖ノ島研究』第六号、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会、二〇二〇年
- (2) 花田勝広「筑紫宗像氏と首長権」『地域相研究』第二〇巻上巻、地域相研究会、一九九一年
- (3) 小嶋篤「宗像型横穴式石室の研究―石室構築と墳丘構築の調査視点―」『九州歴史資料館研究論集』四七、九州歴史資料館、二〇二二年
- (4) 太田智「いわゆる『宗像型横穴式石室』の成立過程」『宗像市史研究』第五号、新修宗像市史研究編集委員会、二〇二三年
- (5) 『豊浦町史』、一九七九年
- (6) 『北九州市埋蔵文化財分布地図（小倉北区・門司区・離島）』、北九州市教育委員会、一九九八年
- (7) 山中英彦「四藍島・六連島の海人文化―仲哀紀の世界をさぐる―」『海と列島文化―日本海と出雲世界―』小学館、一九九一年
- (8) 武末純「総説弥生時代」『北九州市の埋蔵文化財―遺跡分布調査報告書―』北九州市文化財調査報告書第一六集、一九七六年、挿図③北九州地域弥生時代遺跡分布図の弥生時代推定海岸線を使用。
- (9) 武末純「第四編古墳時代第三章北九州市の古墳時代遺跡第六節洞海湾地域一名護屋岬古墳群」『北九州市史総論・先史・原史』北九州市、一九八五年
- (10) 小田富士雄・黒野肇「筑前・高倉古墳群調査概報」『九州考古学』一七号、九州考古学会、一九六三年
- (11) 広瀬和雄「海浜型前方後円墳を考える」『海浜型古墳前方後円墳の時代』同成社、二〇一五年
- (12) 山中英彦「第四編古墳時代第四章特説北九州市の古墳文化第二節海の豪族」『北九州市史総論・先史・原史』北九州市、一九八五年